

2017年度（2018年3月期） 第2四半期 決算説明会

2017年 10月 26日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

- 2017年度 第2四半期決算
通期業績予想
中期経営計画の進捗

決算ハイライト (第2四半期)

(億円)	2016年度		2017年度		前年同期比	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上収益	2,484	-	2,725	-	+240	+9.7%
事業利益	192	7.8%	113	4.2%	-78	-40.9%
営業利益	207	8.4%	90	3.3%	-117	-56.7%
税引前利益	207	8.3%	85	3.1%	-121	-58.7%
四半期利益	144	5.8%	48	1.8%	-95	-66.3%
EPS*	40.66 円		13.58 円			
換算 レート	USD EUR その他通貨 合計	102.44 円	111.00 円	為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
		114.28 円	130.36 円	USD	+66	△20
				EUR	+49	+30
				その他通貨	+68	+34
				合計	+184	+44

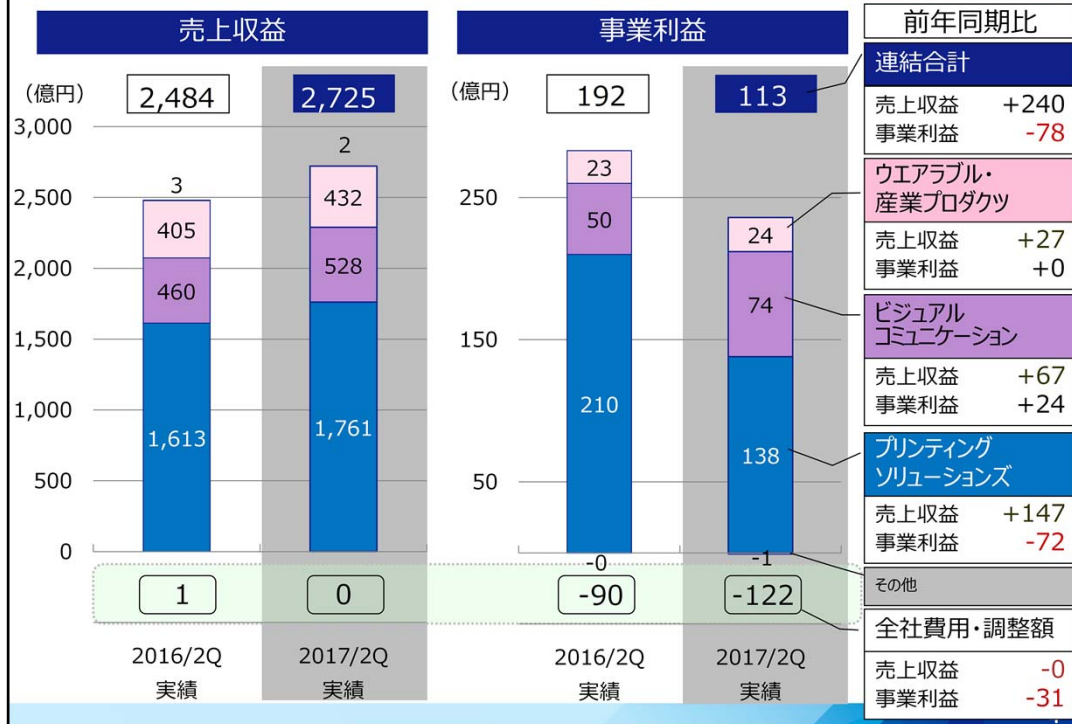
* 基本的1株当たり四半期利益

3

- 2017年度 第2四半期の実績は、ご覧の通りとなりました。
- 売上収益は、前年同期比 240億円 増収の 2,725億円、事業利益は、78億円 減益の 113億円、四半期利益は、95億円 減益の 48億円 となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額は、売上収益で 184億円、事業利益で 44億円 のプラスとなりました。

2017年度第2四半期業績 ▶ 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION



- こちらは、当第2四半期におけるセグメント別での売上収益、事業利益の前年同期比較になります。
- 減益の主な要因は、
 プリンティングソリューションズにおいて、
 部品調達先の火災の影響が生産、販売に及んだこと、
 および、インクカートリッジ型プリンターの生産数量変動による
 費用計上の増加などによるもので、事業環境には大きな変動はありません。
- また、7月27日に開示した通期業績予想の前提となる社内計画に対しては、
 USDル、ユーロなど為替が想定に対して円安に推移したことによる効果もあり、
 売上収益、事業利益とも堅調に推移しました。
- 為替影響を除くと、
 プリンティングソリューションズは、
 インクカートリッジ型プリンター本体で若干の販売未達や、
 大判プリンターの一部製品に競合の影響があったものの、
 大容量インクタンクモデルや、その他の製品は堅調に推移したことで、
 セグメント全体では、概ね計画通り推移しました。
- ビジュアルコミュニケーションも、計画通り推移しました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、
 ウォッチや水晶デバイスで若干の未達となりました。

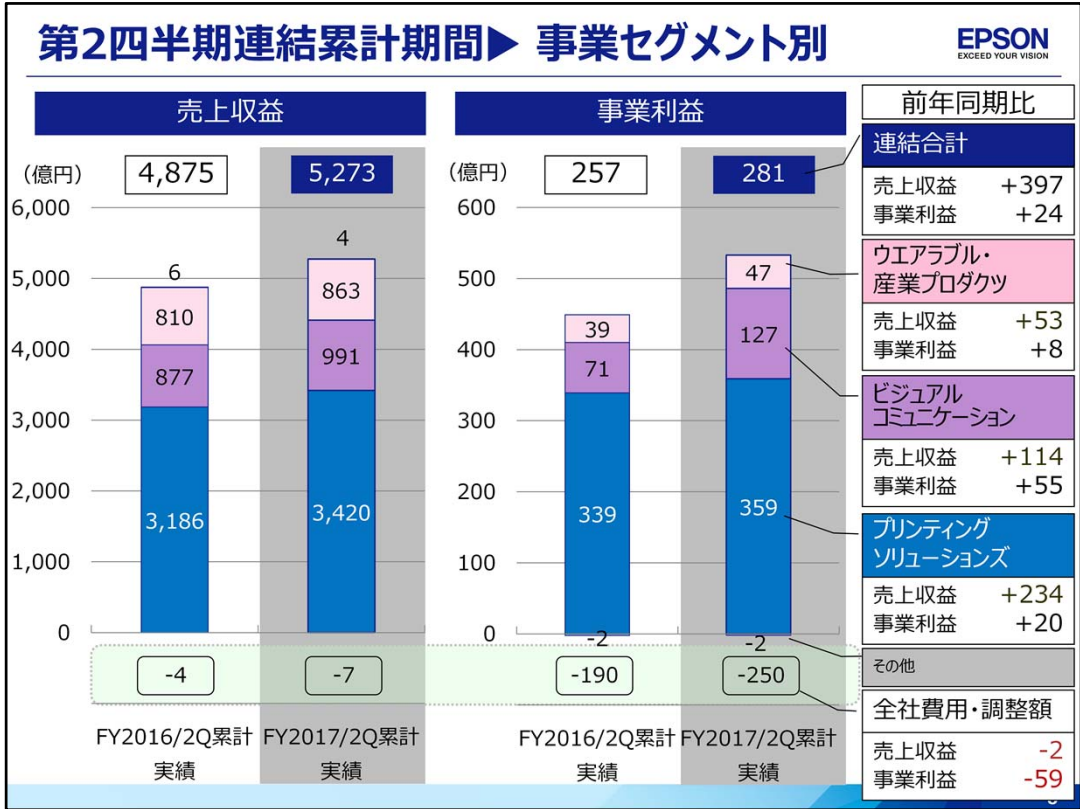
決算ハイライト（第2四半期連結累計期間）

(億円)	2016年度		2017年度		前年同期比	
	2Q累計実績	%	2Q累計実績	%	増減額	増減率
売上収益	4,875	-	5,273	-	+397	+8.2%
事業利益	257	5.3%	281	5.3%	+24	+9.4%
営業利益	277	5.7%	236	4.5%	-40	-14.7%
税引前利益	270	5.6%	230	4.4%	-40	-15.0%
四半期利益	186	3.8%	151	2.9%	-34	-18.5%
EPS*	52.09 円		42.55 円			
換算 レート	USD	105.29 円	111.04 円	為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
	EUR	118.15 円	126.24 円	USD	+87	△24
				EUR	+49	+30
				その他通貨	+78	+43
				合計	+215	+50

* 基本的1株当たり四半期利益

5

- 2017年度 第2四半期 連結累計期間の実績は、ご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 397億円 増収の 5,273億円、事業利益は、24億円 増益の 281億円、四半期利益は、34億円 減益の 151億円 となりました。
- 当連結累計期間の為替変動による影響額は、売上収益で 215億円、事業利益で 50億円 のプラスとなりました。



- こちらは、第2四半期 連結累計期間における、セグメント別の売上収益、事業利益の前年同期 との比較になります。

- ご覧のとおり、上期の累計では、円安の効果に加え、各事業とも、戦略製品を中心に売上収益を増加させ、将来成長に向けた費用を積極的に投下しながらも、着実な利益成長を実現することができました。

2017年度 業績予想

EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)	2016年度		2017年度				前期 実績比	7/27 予想比	
	実績	%	7/27 予想	%	10/26 予想	%			
売上収益	10,248	-	10,700	-	10,700	-	+451 +4.4%	+0 +0.0%	
事業利益	658	6.4%	790	7.4%	790	7.4%	+131 +20.0%	+0 +0.0%	
営業利益	678	6.6%	760	7.1%	760	7.1%	+81 +11.9%	+0 +0.0%	
税引前利益	674	6.6%	760	7.1%	760	7.1%	+85 +12.6%	+0 +0.0%	
当期利益	484	4.7%	580	5.4%	580	5.4%	+95 +19.8%	+0 +0.0%	
EPS ^{*1}	136.82 円		164.67 円		164.67 円		第3四半期以降の為替前提		
							USD	108円	
							EUR	123円	
換算レート	USD	108.38 円	109.00 円		110.00 円		為替感応度*2		
	EUR	118.79 円	123.00 円		125.00 円		USD	△30	+4
							EUR	△15	△10
							その他通貨合計	△28	△11

*1:基本的1株当たり当期利益

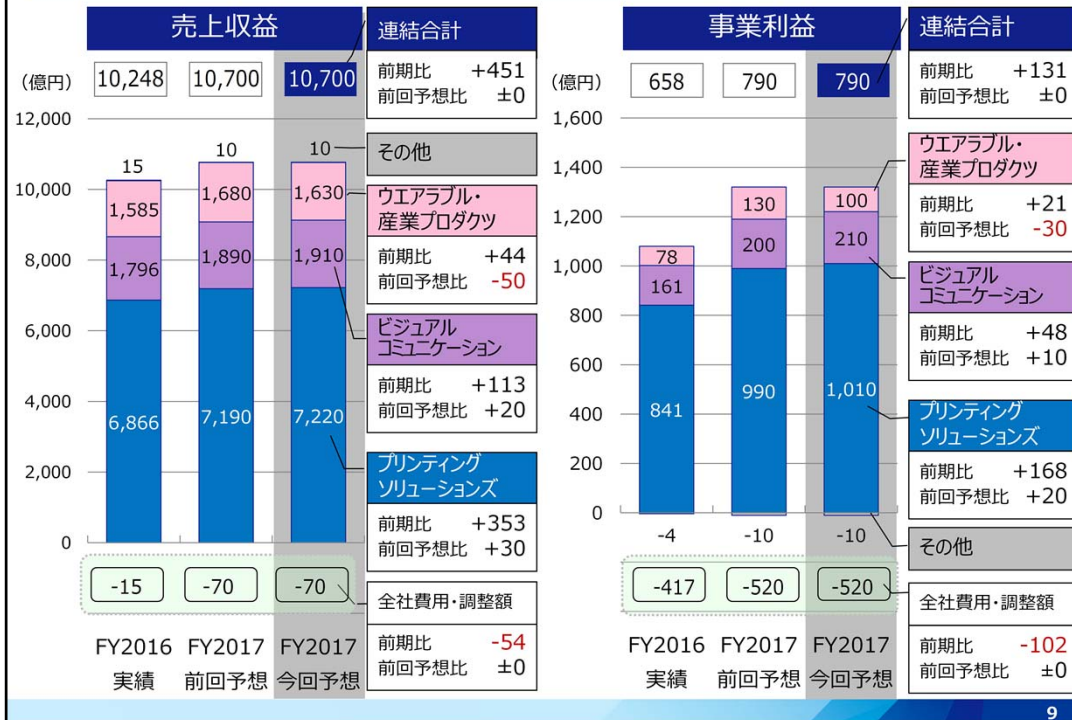
*2:USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

- 続いて、2017年度通期予想をご説明します。
- 2017年度通期の業績予想は、
売上収益は 1兆 700億円、
事業利益は 790億円、
当期利益は 580億円 となります。
- 第2四半期までの実績および最新の見通しに基づき、
セグメント・事業ごとに予想の修正を行いましたが、
連結合計では前回予想を据え置きました。
- 第3四半期以降の為替前提も、前回予想から変更ありません。

- 中期経営計画の核となる戦略は着実に進展
 - 大容量インクタンクモデルはさらに拡大
 - サイネージ・テキスタイル・ラベル用大判プリンター、プロジェクター、ロボットなどは順調に拡大
- 事業環境の変化を織り込む
 - 一部製品の市況および案件の製品ミックスなどを見直し
 - ✓ フォト・グラフィックス用大判プリンター、小型プリンター、ウオッチ、水晶デバイス
 - 原材料価格の高騰などを見込む
- 通期で、中期経営計画に沿った、着実な利益成長を見込む

- ここで、今回の通期業績予想のポイントをご説明します。
- まず、中期経営計画の核となる戦略は、着実に進展する見通しです。
- 足元の成長ドライバーである大容量インクタンクモデルはさらに拡大し、販売数量は、前回予想の740万台から、40万台引き上げ、今年度は、前年度から30%近い増加の780万台以上となり、エプソンのインクジェットプリンターの販売台数に占める割合も45%を超える水準となる見込みです。
- また、サイネージ・テキスタイル・ラベル用大判プリンター、プロジェクター、ロボットなどは、順調な拡大を見込んでいます。
- 一方で、前回予想からの事業環境変化も織込みました。
- プリンティングソリューションズでは、フォト・グラフィックス用大判プリンターの一部製品での競合の影響を反映するとともに、小型プリンターの、下期における案件のミックス変化を織り込み、プロフェッショナルプリンティングの予想を引き下げました。
- ウエアラブル・産業プロダクツでは、ウオッチ完成品が、米国向けの低迷に加え、足元で日本市場の回復が鈍いこと、水晶デバイスが、中国向けモバイル分野の伸長が想定に対して未達となる見通しであることなどを織り込みました。
- また、各事業において原材料価格の高騰などを見込みました。
- 以上から、一部事業環境に変化があったものの、通期としてはEpson 25 第1期中期経営計画に沿った、着実な利益成長を見込んでいます。

2017年度 業績予想 ▶ 事業セグメント別



▶ 通期業績予想の、事業セグメント別の売上収益と事業利益は、ご覧のとおりです。

■ インクジェットイノベーション

- オフィスプリント需要の獲得
 - ✓ 大容量インクタンクモデルの販売拡大
 - ✓ 高速ラインインクジェット複合機の投入
- 商業・産業印刷での新分野強化
 - ✓ サイネージ・テキスタイル・ラベル分野の拡大継続



■ ビジュアルイノベーション

- 高付加価値製品の強化
 - ✓ 高光束プロジェクターの伸長
 - ✓ 製品ラインアップ強化



10

- ここで、Epson 25 第1期中期経営計画に基づく戦略の進捗を、確認したいと思います。
- 2016年度からスタートした、この中期経営計画では、インクジェット・ビジュアル・ウェアラブル・ロボティクスの4つの領域において、イノベーションを実現するために、重点分野での販売拡大を進めるとともに、新製品の開発や生産体制の強化など、将来にむけた基盤を創り上げるための取り組みも、同時に進めてまいりました。
- プリンター事業では、オフィスプリント需要の獲得に向けた取り組みが進んでいます。
- 大容量インクタンクモデルは、エマージング地域で市場拡大を牽引するとともに、先進国でも認知が進み、エプソンの先進国向けの販売においても、着実に比率を増加させています。
- また、6月に市場投入した高速ラインインクジェット複合機は、印刷性能や環境性能などへの評価も高く、お客様への納入実績も着実に積み上がっており、エプソンの将来成長を担う製品として、順調なスタートを切ることができました。
- プロフェッショナルプリンティングでは、サイネージ・テキスタイル・ラベル分野での取り組みを強化し、売上拡大を継続しています。
- ビジュアルコミュニケーションでは、2016年度に投入したレーザー光源搭載の高光束プロジェクターが好評で、今中期経営計画の直前となる2015年度に15%に満たなかったレンズ交換式の高光束市場に占めるエプソンのシェアも順調に伸長し、2017年度には20%の達成が視野に入ってきました。
- 同時に、高光束以外のプロジェクターのラインアップも継続的に強化し、数量成長とモデルミックスの改善が継続しています。

■ ウェアラブルイノベーション

- 既存資産の活用によるお客様の拡大
 - ✓ 新ブランド「TRUME」

■ ロボティクスイノベーション

- 市場拡大を捉えた事業展開
 - ✓ コンパクトロボットによる
スペース効率向上
 - ✓ センシング技術の活用による
対応可能作業の拡大



11

- ウェアラブル機器事業では、
既存資産を最大限活用し、お客様を広げる取り組みも前進させることができました。
- 既存のお客様に向けた製品の強化に加え、
新ブランド「TRUME」の第1弾として、
アナログウォッチにセンサー機能を融合させた個性的な商品を投入しました。
- ロボティクスソリューションズでは、
ロボットが、エプソンの特長である高精度、小型、省スペースに加え、
センシング技術を生かした力覚センサーなどの付加価値を訴求することで、
市場拡大を確実に捉え、
2015年度には154億円であった事業全体の売上も、
2017年度は1.5倍近くとなる220億円を見込めるまでに成長しています。

■ 事業基盤強化

- 研究・開発・設計体制の強化
 - ✓ グローバル体制整備（イタリア・カナダ・インドネシア）
- 販売増加に備えた生産体制の強化
 - ✓ フィリピン新工場稼働開始
 - ✓ 広丘事業所（長野県塩尻市）などの拡張
- オフィス向け販売体制の強化
 - ✓ 要員の採用・組織整備



フィリピン新工場



広丘事業所 インクジェットプリントヘッド
生産・開発機能強化（建設中）



広丘事業所 商業・産業プリンター
機能強化（建設予定）

12

- あわせて、この中期経営計画では、事業基盤の強化も積極的に進めています。
- 研究・開発・設計機能は、基本的に日本に集約して効率的に行っていますが、イタリア・コモ地区におけるテキスタイル技術の研究開発、カナダ・トロントでのソフトウェア開発、インドネシア・ジャカルタのプリンター設計など、グローバルで最適な場所に拠点を設け、日本を補完できる体制を構築しています。
- また、中期的な販売拡大に備えた生産拠点も、整備を進めています。
- 昨年度完成したインドネシア工場に加え、今四半期からフィリピン新工場でもインクジェットプリンターの生産が始まりました。
新工場は、省人化を図るとともに、これから増加する比較的大きな製品にも適したライン設計としました。
- 長野県にある広丘事業所の拡張も進めており、インクジェットプリントヘッドや、商業・産業プリンターの生産・開発などの基盤強化を図ります。
- さらに、販売体制の整備も着々と進めました。
- 高速ラインインクジェット複合機の市場投入にあたり、日米欧の販売現法を中心に、要員の採用や組織整備など、オフィス向けの体制強化は計画に沿って順調に進んでいます。
- 以上より、この上期で、Epson 25 第1期中期経営計画は折り返し地点を過ぎたこととなりますが、戦略は着実に進展していると考えています。
引き続き、長期ビジョン「Epson 25」実現に向けて、粘り強く取り組んでまいります。

- 2017年度 第2四半期決算詳細
セグメント別予想前提
主要経営指標

決算ハイライト（第2四半期）

	2016年度		2017年度		前年同期比	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
(億円)						
売上収益	2,484	-	2,725	-	+240	+9.7%
事業利益	192	7.8%	113	4.2%	-78	-40.9%
営業利益	207	8.4%	90	3.3%	-117	-56.7%
税引前利益	207	8.3%	85	3.1%	-121	-58.7%
四半期利益	144	5.8%	48	1.8%	-95	-66.3%
EPS*	40.66 円		13.58 円			
換算 レート	USD	102.44 円	111.00 円	為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
				USD	+66	△20
				EUR	+49	+30
				その他通貨	+68	+34
		114.28 円	130.36 円	合計	+184	+44

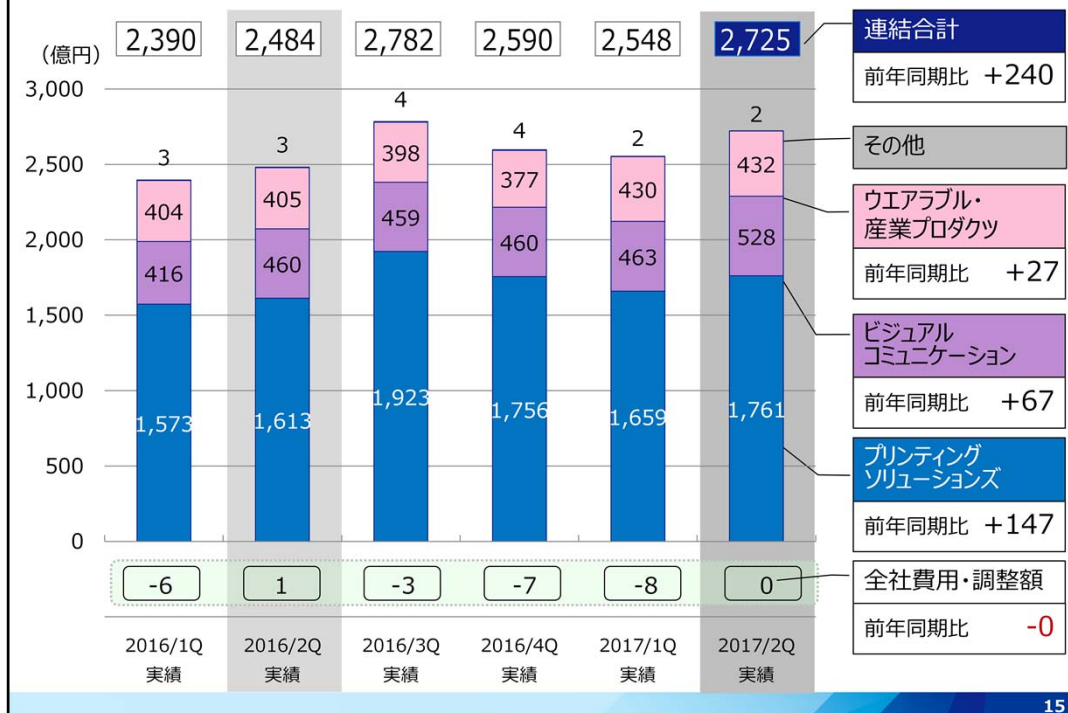
* 基本的1株当たり四半期利益

14

➤ 第2四半期の決算ハイライトは、ご覧のとおりです。

四半期売上収益推移 ▶ 事業セグメント別

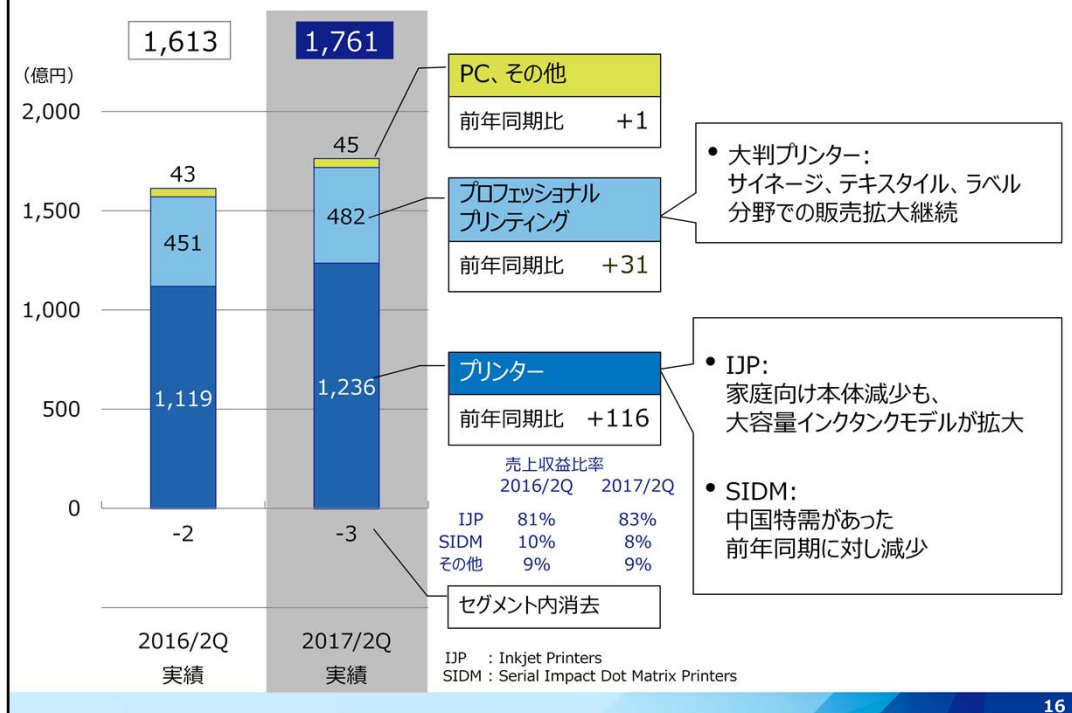
EPSON
EXCEED YOUR VISION



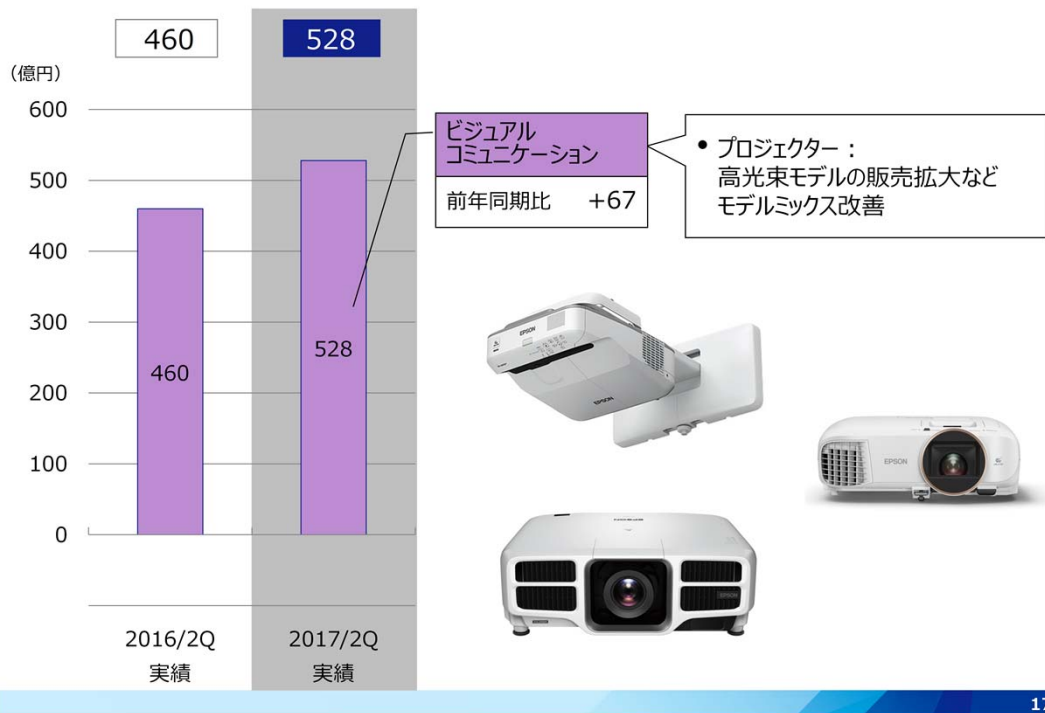
- こちらは、事業セグメント別の 四半期 売上収益推移となります。
- 第2四半期は、第1四半期に引き続き、
プリンティングソリューションズ、ビジュアルコミュニケーション、
ウェアラブル・産業プロダクツの主要セグメントで、前年同期を上回りました。
- 第2四半期は為替環境が好転している効果もありますが、
それぞれのセグメントで、戦略による成果が表れていると考えています。

四半期売上収益比較 ▶ プリンティングソリューションズ

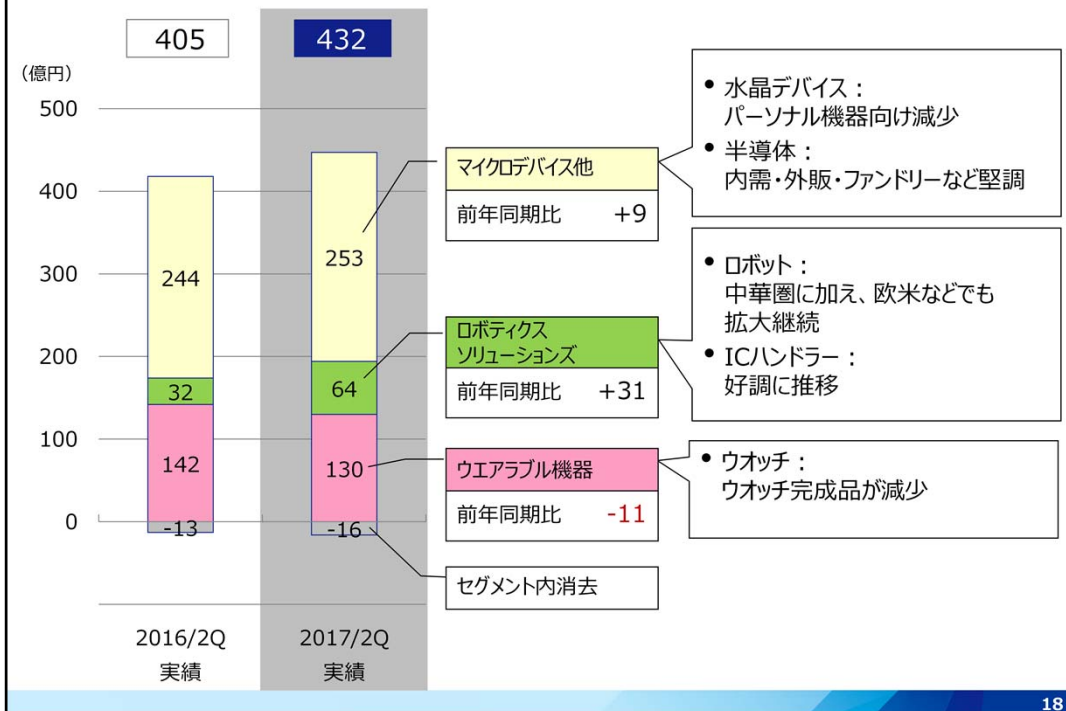
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- プリンティングソリューションズの売上収益の前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- プリンター事業は、SIDMが、中国の税制改定に伴う特需があった前年同期から減少したことに加え、インクジェットプリンターで、第1四半期に発生した部品調達先の火災による供給不足の影響や家庭向け市場の縮小などにより、インクカートリッジモデル本体が減少するとともに、インクカートリッジで、西欧のチャネル在庫調整が第2四半期まで継続したことによる減少があったものの、大容量インクタンクモデルが、エマージング地域、先進国ともに好調に推移したことや、為替の効果もありプリンター事業全体で増収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、大判プリンターで、フォト・グラフィックス分野の一部に競合の影響があったものの、サイネージ・テキスタイル・ラベル分野での戦略が進展し、アナログ印刷からのシフトに伴うデジタル印刷市場の成長機会を着実に捉えて、販売拡大が継続していることに加え、為替の効果もあり、増収となりました。
- 以上により、セグメント全体で前年同期を大きく上回りました。

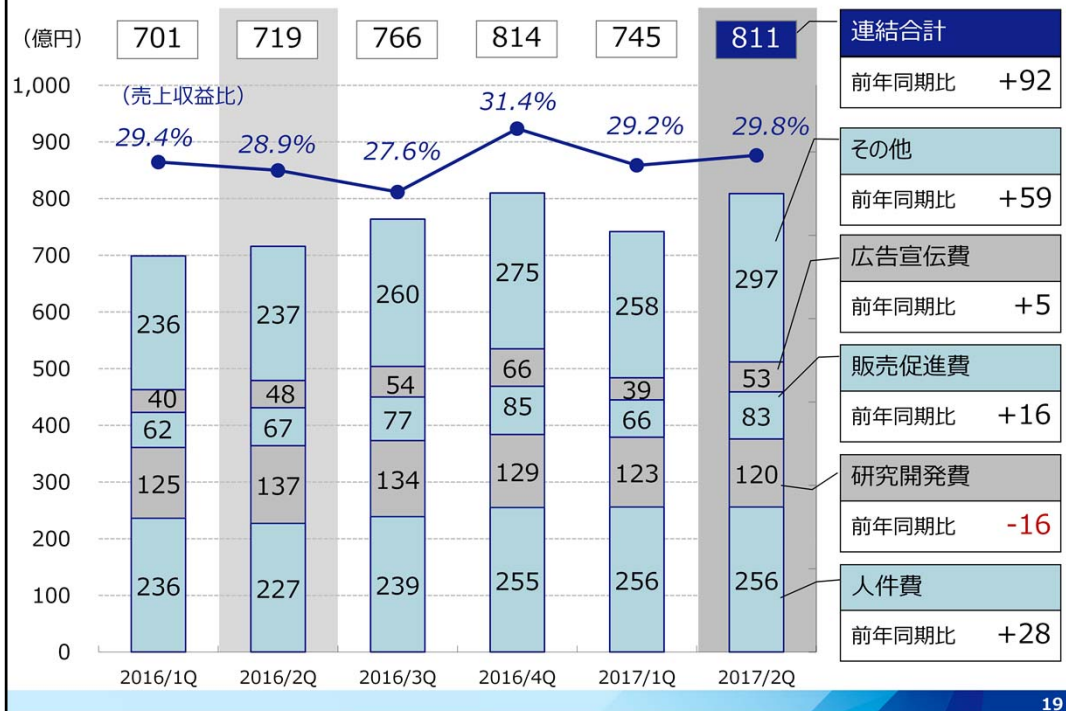


- ▶ ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場が軟調に推移する中、高光束モデルが順調に拡大し、ホームプロジェクターも好調に推移するなど高付加価値製品が増加したことで、モデルミックスの改善が継続したことに加え、為替の効果もあり、大幅な増収となりました。



- 続いて、ウェアラブル・産業プロダクツです。
- ウェアラブル機器は、ウオッチのムーブメントビジネスで底打ち感が見られましたが、完成品は日本や北米向けの低迷により、減収となりました。
- ロボティクスソリューションズは、
ロボットが、中華圏のモバイル機器向けなどが増加したことに加え、
欧米での自動車部品、電機製品、医療機器向けなど、
さまざまな地域や用途での拡大が継続し、ハンドラーも好調に推移したことから、
事業全体で、前年同期から倍増しました。
- マイクロデバイス他は、
水晶で、パーソナル機器向けの減少などがあった一方で、
半導体は、内需・外販・ファンドリービジネスとも好調に推移し、
為替の効果などもあり、事業全体では前年同期を上回りました。

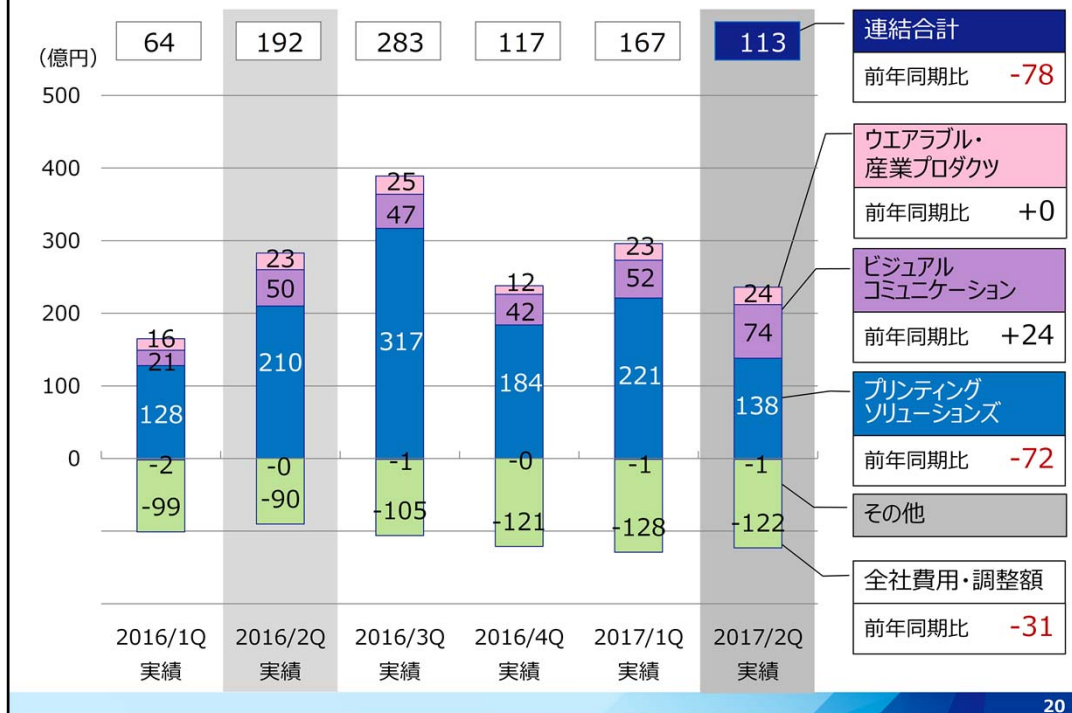
四半期販売費及び一般管理費推移



- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧の通りです。
- 前年同期からは、為替が円安だったことによる影響もあり、92億円の増加となりました。
- 人件費、販売促進費は、将来を見据えた販売体制整備や戦略製品のプロモーション活動強化などにより増加しました。
- その他の項目では、調達先火災影響による生産遅延に対応した、航空輸送費の増加のほか、一部の知的財産に関する費用の、計上科目変更にとまなう増加などがありました。

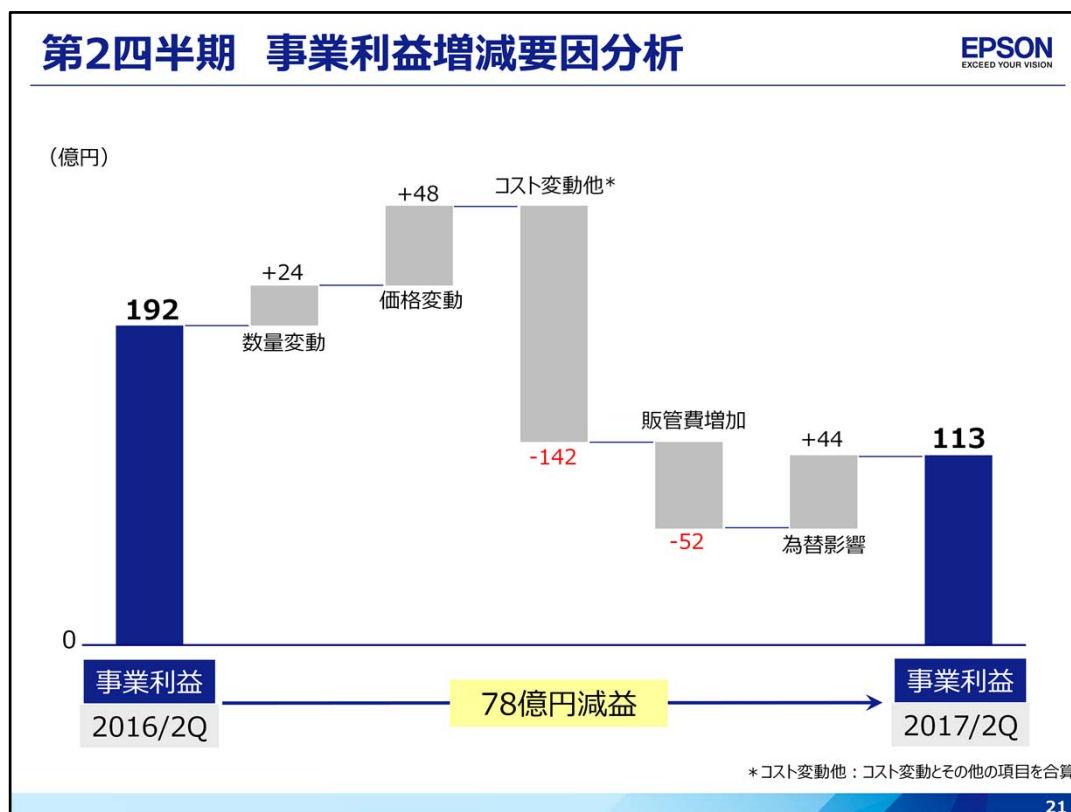
四半期事業利益推移 ▶ 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION



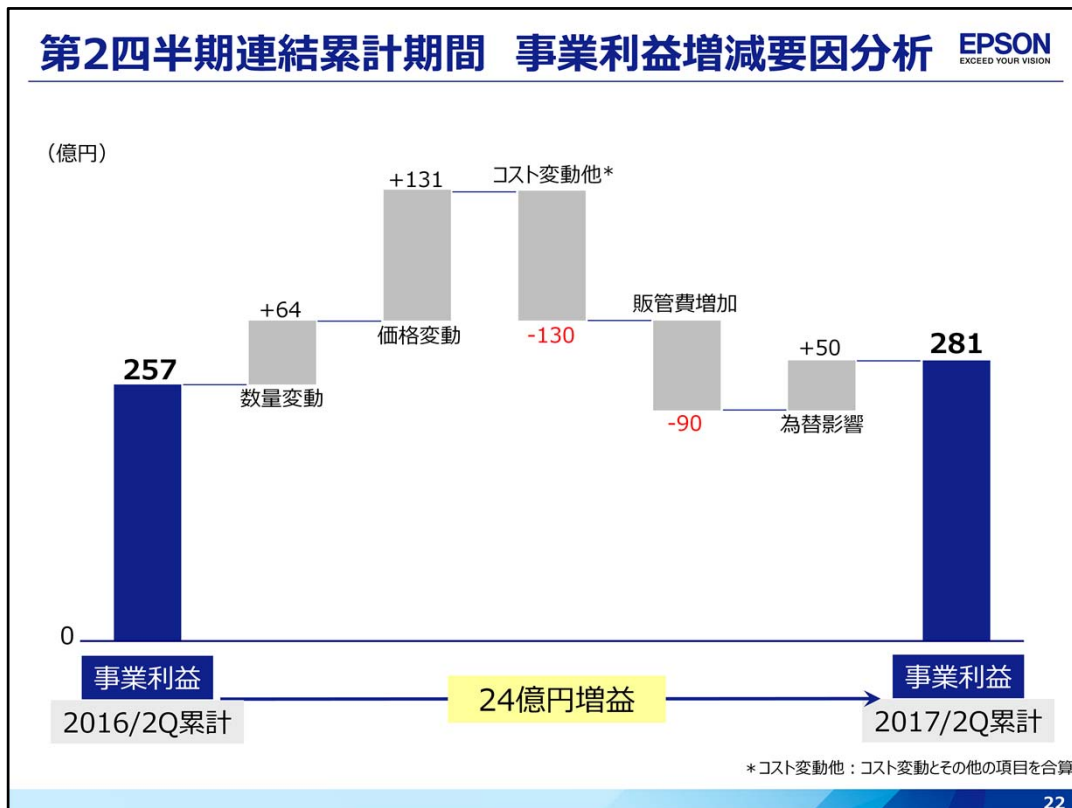
- 事業セグメント別の 四半期 事業利益推移は、ご覧のとおりです。
- 前年同期に対しては、
プリンティングソリューションズは、セグメント全体の売上収益は増収となったものの、利益への貢献が大きいSIDMやインクカートリッジの減収影響のほか、インクジェットプリンターのインクカートリッジモデル本体の生産が、調達先火災影響により、第1四半期から第2四半期にずれ込んだことなどにより、四半期別の生産バランスが前年度から変化したことで、費用の増加がありました。
- さらに、高速ラインインクジェット複合機などの販売基盤強化の実施に加え、航空輸送費の増加や、原材料の高騰影響なども加わり、事業利益は前年同期を大きく下回りました。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの増収により、増益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、ウェアラブル機器での減収の一方、ロボティクスソリューションズやマイクロデバイス他の増収により、セグメント全体では、前年同期並みとなりました。
- 全社費用・調整額の費用増加には、業績の水準に応じて変動する固定費増加のほか、今期より、各セグメントに配賦していた一部の知的財産に関する費用を全社費用セグメントに計上することとした影響などが含まれています。

第2四半期 事業利益増減要因分析



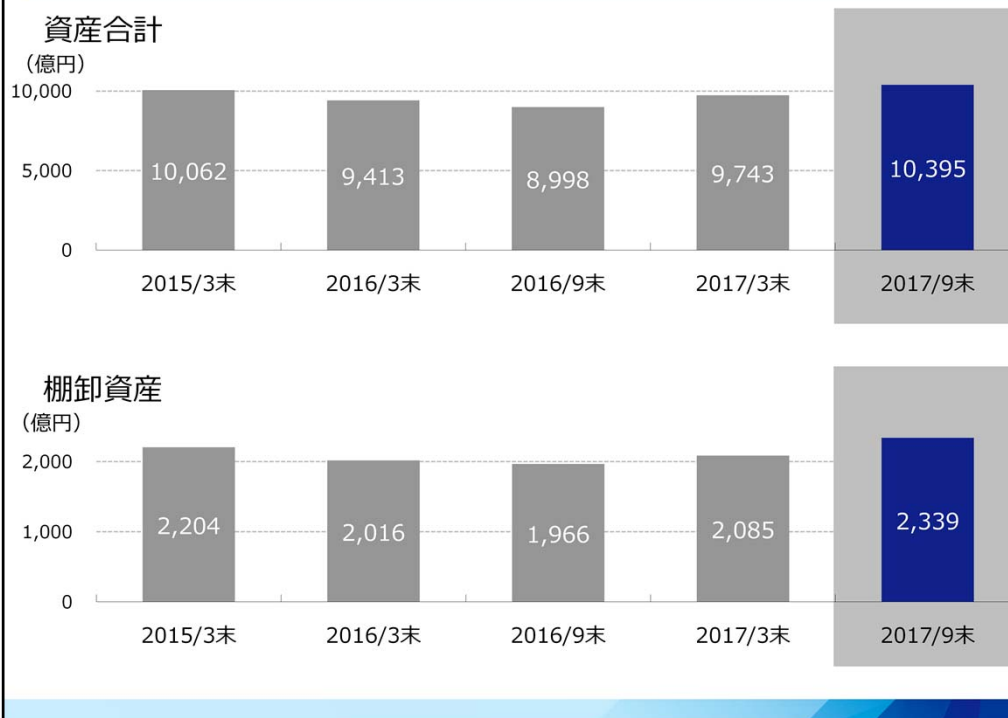
- 第2四半期 事業利益の前年同期比 減損額 78億円の要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、
SIDM、ウォッチ完成品、水晶デバイスの減少に加え、
インクカートリッジでミックス変動によるマイナスがありました、
大容量インクタンクモデル、大判プリンター、ロボット、半導体などが増加したことで
プラス効果が上回りました。
- 価格変動は、
フォト・グラフィックス向け大判プリンターやマイクロデバイスがマイナスの一方、
高光束やホーム向けが好調に推移したプロジェクターや
テキスタイル向け大判プリンターに加え、
インクカートリッジのミックス変動などによるプラスがありました。
- コスト変動は、
大容量インクタンクモデルやプロジェクターなど
高付加価値製品の増加に伴うコスト増加のほか、
インクカートリッジモデル本体の前年同期に対する
生産変動によるコスト増加などがありました。
- 販管費の増加は、販売体制の強化や航空輸送費の増加などによるものです。

第2四半期連結累計期間 事業利益増減要因分析 EPSON EXCEED YOUR VISION



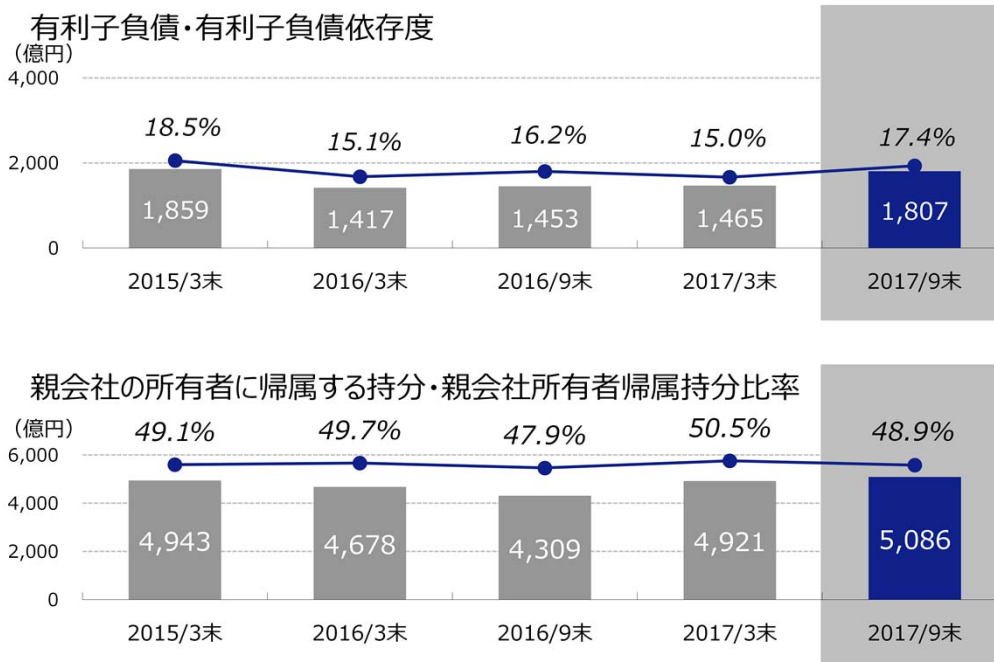
- こちらは、第2四半期 連結累計期間の事業利益の増減要因分析となります。
- 第2四半期は、コスト変動によるマイナス影響が大きく表れることとなりましたが、上期累計では、数量変動や価格変動の増加効果がコスト変動のマイナスを上回っていることが確認できます。

財政状態計算書主要項目推移



- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、
棚卸資産の増加やフィリピン新工場完成による有形固定資産の増加などにより、前期末に対して651億円増加し、1兆395億円となりました。
- 棚卸資産は、前期末に対して254億円増加し、2,339億円となりました。

財政状態計算書主要項目推移



24

- 有利子負債は、
前期末に対して341億円増加の、1,807億円となり、
資産合計の有利子負債依存度は17.4%となりました。
- ネットキャッシュは、507億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、
前期末に対して164億円増加の5,086億円となり、
親会社所有者帰属持分比率は、48.9%となりました。

2017年度 業績予想

(億円)	2016年度		2017年度				前期 実績比	7/27 予想比	
	実績	%	7/27 予想	%	10/26 予想	%			
売上収益	10,248	-	10,700	-	10,700	-	+451 +4.4%	+0 +0.0%	
事業利益	658	6.4%	790	7.4%	790	7.4%	+131 +20.0%	+0 +0.0%	
営業利益	678	6.6%	760	7.1%	760	7.1%	+81 +11.9%	+0 +0.0%	
税引前利益	674	6.6%	760	7.1%	760	7.1%	+85 +12.6%	+0 +0.0%	
当期利益	484	4.7%	580	5.4%	580	5.4%	+95 +19.8%	+0 +0.0%	
EPS ^{*1}	136.82 円		164.67 円		164.67 円		第3四半期以降の為替前提		
							USD	108円	
							EUR	123円	
換算レート	USD	108.38 円	109.00 円		110.00 円		為替感応度*2		
	EUR	118.79 円	123.00 円		125.00 円		USD	△30	+4
							EUR	△15	△10
							その他通貨合計	△28	△11

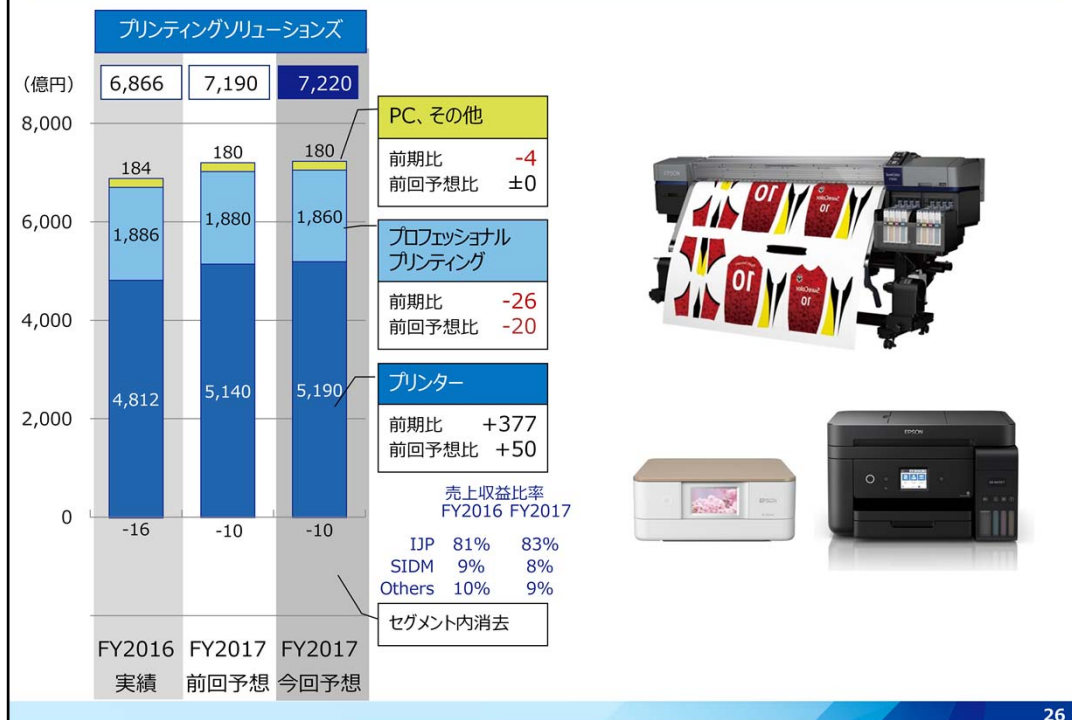
*1:基本的1株当たり当期利益

*2:USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

➤ 2017年度通期の業績予想は、ご覧のとおりです。

2017年度 業績予想 ▶ 事業別売上収益

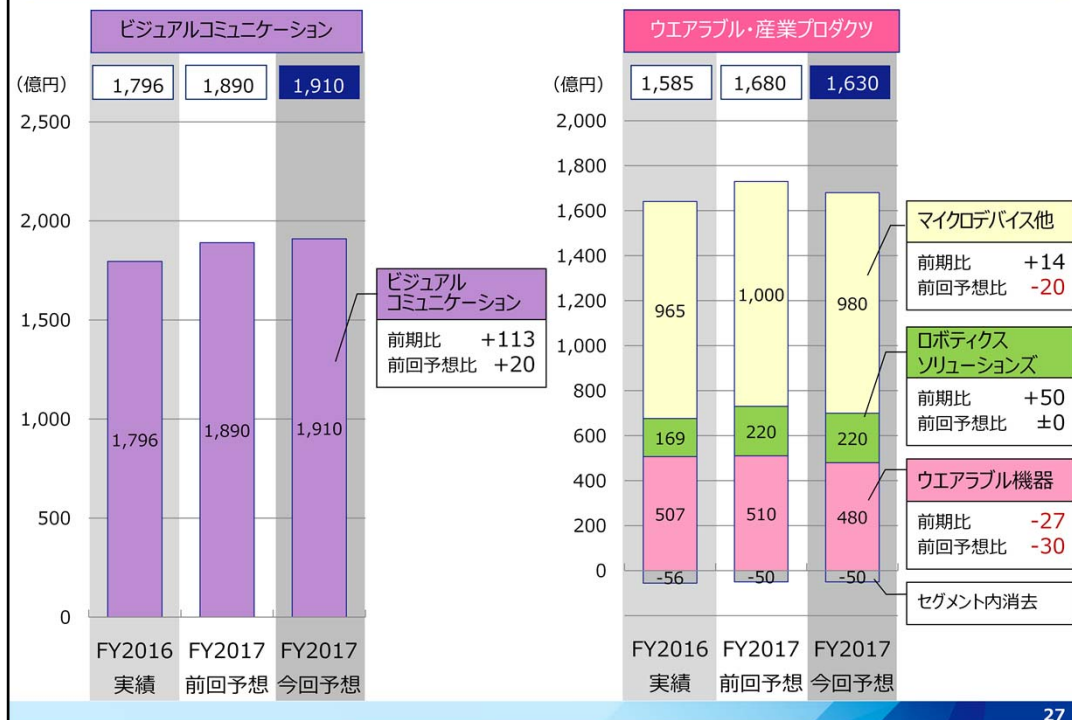
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- こちらは、プリンティングソリューションズの事業別売上収益です。
- 前回予想に対し、プリンター事業では、大容量インクタンクモデル本体販売数量がさらに増加する見込みです。オフィスや店舗での使用に適したモデルに加え、例えば日本では、ご家庭での印刷に対応したモデルも充実させることで、エマージング地域に加え、先進国においても順調な拡大を見込みます。
- これにより、過度にインクカートリッジの売上に依存することのない、バランスの取れたビジネスモデルへの転換を実現していきます。
- プロフェッショナルプリンティングは、フォト・グラフィックス分野向けで競合の影響や、小型プリンターで、北米における案件のミックスの変化を織込んだことで、前回予想から引き下げましたが、成長分野であるサインージ・テキスタイル・ラベル分野は拡大の継続を予想しています。
- なお、第1四半期にもご説明したとおり、通期業績予想には、フォト・グラフィックスの一部製品の計上先を、プリンター事業に変更したことによる売上収益のマイナスが反映されています。

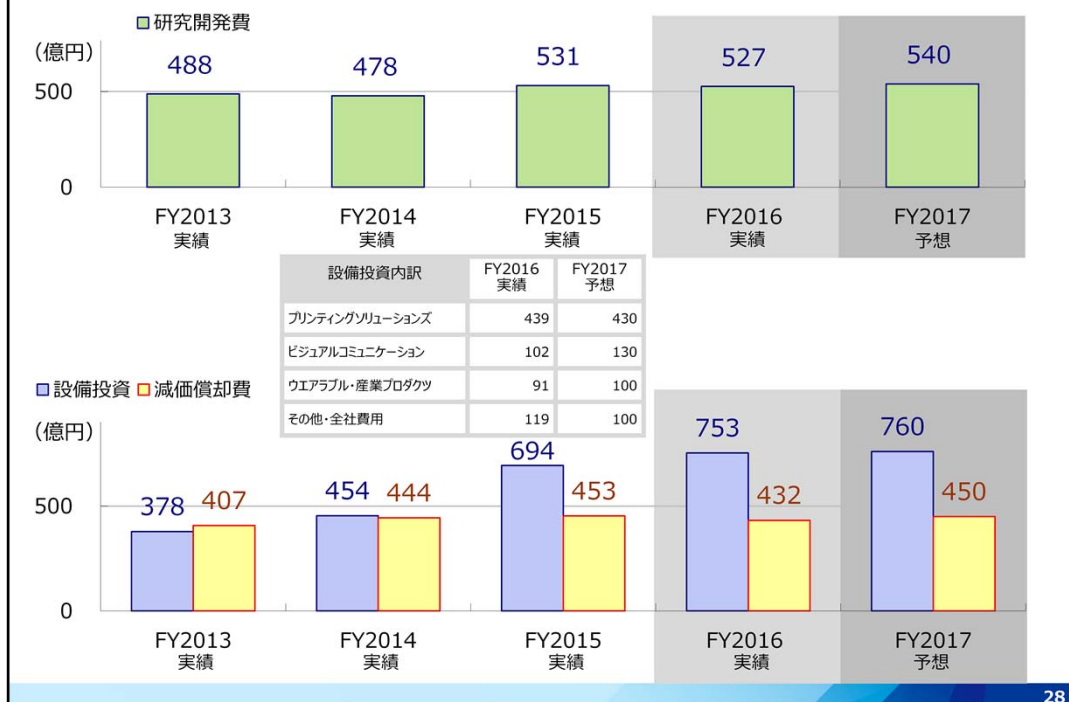
2017年度 業績予想 ▶ 事業別売上収益

EPSON
EXCEED YOUR VISION



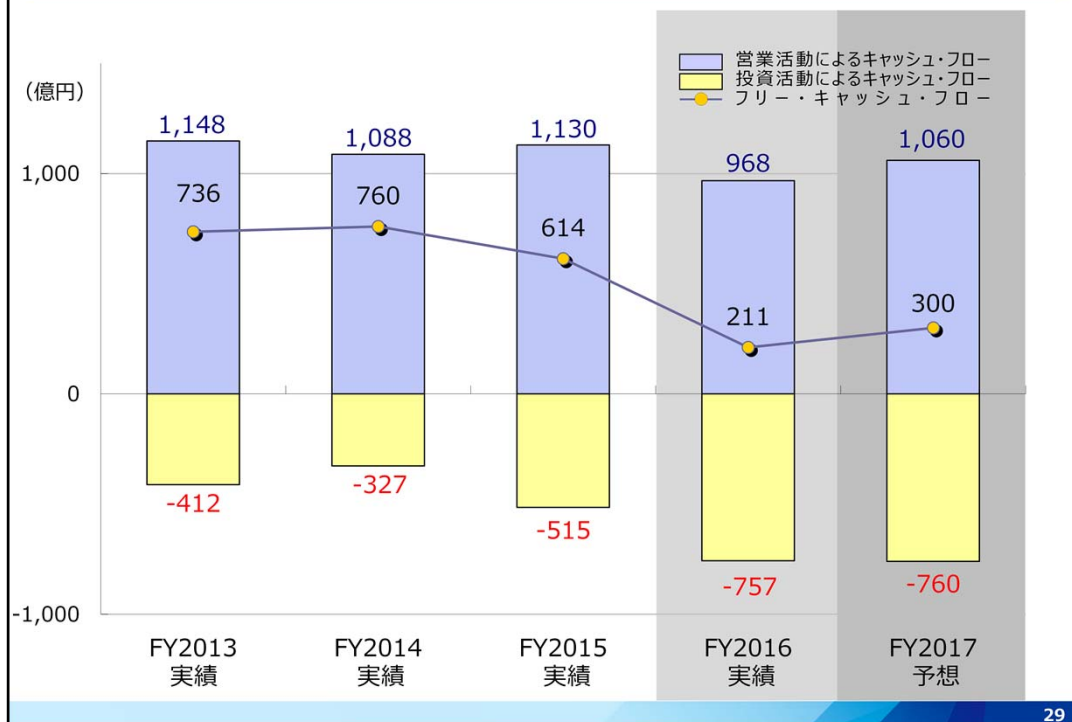
- こちらは、ビジュアルコミュニケーションとウェアラブル・産業プロダクツの事業別売上収益です。
- ビジュアルコミュニケーションの見通しに大きな変化はありません。前回予想同様に、プロジェクターでの、着実な数量成長に加え、高光束モデルなどの高付加価値製品の販売増加によるモデルミックスの改善を計画しています。
- ウェアラブル機器は、ウオッチ完成品で米国向けの低迷に加え、日本市場における回復の足取りが前回の想定より鈍いことから、予想を引き下げました。
- ロボティクスソリューションズは、前回同様、需要に確実に応えることで拡大を予想しています。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスで、中国向けモバイル分野の伸長が想定に対し未達見通しであることから予想を引き下げましたが、半導体や、微細合金粉末、表面処理加工などは安定的な推移を見込みます。

研究開発費/設備投資・減価償却費



- 研究開発費、設備投資、および減価償却費の予想は前回予想から変更ありません。
- 引き続き、将来成長に向けた費用投入や投資を積極的に行います。

フリー・キャッシュ・フロー



- 2017年度のキャッシュ・フローの予想も変更ありません。
 営業活動によるキャッシュ・フローは、1,060億円、
 投資活動によるキャッシュ・フローは、760億円、
 その結果、フリー・キャッシュ・フローは、300億円を予想します。

主な経営指標



- 以上の業績予想に基づく2017年度の主な経営指標は、
 ROSが 7.4%
 ROAが 7.9%
 ROEが 11.3% となります。

補足資料

主な業績指標

EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)					(億円)			
		FY2016 実績	FY2017 予想	FY2018 目標	項目	FY2016 実績	FY2017 予想	Epson 25 第1期累計
為替レート	USD	¥108.38	¥110.00	¥115.00	USD	¥108.38	¥110.00	¥115.00
	EUR	¥118.79	¥125.00	¥125.00	EUR	¥118.79	¥125.00	¥125.00
プリンティング ソリューションズ	売上収益	6,866	7,220	8,050	営業CF	968	1,060	3,300程度
	事業利益	841	1,010	-	FCF	211	300	1,200程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,796	1,910	2,000	設備投資	753	760	2,100程度
	事業利益	161	210	-	研究開発費	527	540	積極的に投下
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,585	1,630	1,950				
	事業利益	78	100	-				
その他	売上収益	15	10	0				
	事業利益	△4	△10	-				
全社・調整額	売上収益	△15	△70	0				
	事業利益	△417	△520	-				
連結合計	売上収益	10,248	10,700	12,000				
	事業利益	658	790	960				
	ROS	6.4%	7.4%	8%				
	ROE	10.1%	11.3%	継続的に 10%以上				

32

主要商品の販売動向

■ 実績および予想（前年同期比）

ASP, 売上収益は日本円換算後

商品		FY2016 通期(実績)	FY2017 1Q(実績)	FY2017 2Q(実績)	FY2017 通期(予想)
為替レート	USD/EUR	¥108.38 / ¥118.79	¥111.08 / ¥122.12	¥111.00/¥130.36	¥110.00 / ¥125.00
IJP 本体	数量	+5%	+7%	+4%	+10%
	数量構成比 オフィス/大容量	約20%/約40%	-	-	20%弱/45%超
	ASP	-1桁%台後半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台前半
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台後半	+20%程度	+20%台前半
IJP インク	数量	-4%	-2%	-3%	-
	ASP	-1桁%台前半	+1桁%台半ば	+1桁%台後半	-
	売上収益	-1桁%台半ば	+1桁%台前半	+1桁%台半ば	前期並み
SIDM 本体	数量	+4%	-25%	-15%	-10%
	ASP	-10%台後半	+1桁%台前半	+1桁%台後半	前期並み
	売上収益	-10%台半ば	-20%台前半	-1桁%台後半	-10%程度
プロジェクター	数量	+6%	-2%	+1%	+3%
	ASP	-1桁%台後半	+10%台半ば	+10%台半ば	+1桁%台前半
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台前半	+10%台半ば	+1桁%台半ば

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。

EPSON
EXCEED YOUR VISION